

岩登りトレーニング in 唐倉山

斎藤 憲一

■山行年月日:2022年4月23~24日
■メンバー:斎藤憲一 斎藤宇 大竹幹
衛 大竹尚子 佐藤健 杉崎圭洋 田中
秀一 阿部満孝

昨年ヒロシと二人で登りにきた唐倉山の岩場は、かなりの大きさがあるにも関わらず、既成ルートは2本しかなく、みんなで駐車場でキャンプを楽しみながら、岩トレを兼ねて新たなルートを開拓しようと勇んで出発した。しかし、密かに心配していた予想が良くない方向に的中してしまい、アプローチの林道は集落の少し先から雪がビッシリ残っていて、車でのアプローチはできない状況であり、ここから唐倉山の登山道駐車

場までのアプローチが最初の核心となる。

キャンプ用に準備した道具は持って行かないのだが、ロープやギアなどで重くなったザックを担いで、念のために持ってきた長靴を履いて歩き始めるが、林道は結構長いために中間部で一本取りながら、1時間半程も掛かってようやく広い駐車場に着くと、南面で日当たりが良いことから、そこには雪のかけらも無く、やはりキャンプをするにはうってつけの場所である。

駐車場から岩場の基部までの登山道にも雪は残っておらず、問題なく達して各自クライミングの準備をする。まずは



まだ芽吹き前で岩場がよく見える

基本のハーネスの装着やロープの結び方などを確認し、二人ずつのパーティーとして斎藤憲・田中、大竹幹・尚、佐藤健・阿部、斎藤宇・杉崎で南稜と西稜の既成ルートに分かれて登ることとする。憲・田中は西稜を田中トップで登るが、決して難しくはないルートではあるのだが、慣れていないせいだと思うがランニングの取り方がぎこちない。これから繰り返しの練習が必要であろう。

次に、1P目終了点の松ノ木から岩場の基部へ懸垂し、当初目星を付けていた南稜と西稜とに挟まれた壁のぼぼ真ん中にルートを開くべく、ロープを固定して下から探りながらアンカーのリングボルトを打ち込んでいく。唐倉山の岩は基本スラブ状であるため、ほとんどクラックがないことからアンカーはボルトを打たざるを得ないため、既成ルートの南稜と西稜もアンカーは全てボルトで

ある。結局8本のリングボルトを埋め込み、壁のほぼ中央部に一本のルートを設定できた。なお、下部のビレイ点などは佐藤健が設置してくれた。

他のパーティーは、それぞれ既成ルート楽しんで登ったようである。気が付けば15時といい時間になったので、新たに設定したルートに登るのは次回の楽しみとして全員で下山する。憲・田中は残念ながら日帰りなので、林道出発点でお別れであるが、他のメンバーは楽しい一夜を過ごすのだろうと羨ましかった。

なお、中間壁にはもう少しルートを開けそうだし、南稜右側のより高さがあり傾斜の強い壁にも何本ものルートが引けそうであり、近いうちにまた来なければならぬとの、新たな課題が見つかった。



南稜と西稜の中間部にルート開拓